

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892400037		
法人名	株式会社 コスモ		
事業所名	グループホーム アンダンテ		
所在地	茨城県 守谷市本町 402-1		
自己評価作成日	平成30年8月8日	評価結果市町村受理日	平成30年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&JigvosoCd=0892400037-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成30年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えないホームを目指しています。歌、音楽レク、外出行事、食レク、ボランティア、日々の会話、散歩等を行うことによって利用者様の笑顔が常にある、そんなホームです。見学等に来ていただいた方にもとても明るくて良いホームですと言ってもらえます。また地域の方と密につながるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念の安・暖・手(安心して、家族・地域と一緒に暖かく、職員と手を取り合って)に当てはめた支援の提供に努めている。今まで通りの生活スタイルの延長として、買い物や外出支援、散歩やボランティア(オカリナ・フラ・ポトルフラワー・そば打ち・手品・歌声喫茶他多種)を受入れ、地域住民との馴染みの関係継続に努め、そこから認知症や事業所に対する理解が深まっている。利用者の思いを全職員で受け止め、個別ケアに努めているおり、オーナーと管理者、職員、利用者、家族との関係は良好で、笑顔があふれている事業所である。職員は優しく丁寧な声掛けをし、必ず「ありがとうございます」と笑顔で伝え、利用者も職員に「ありがとう」と笑顔で返し、快い気持ちになった。オーナーは現場に入り、職員や利用者へ声掛けをし、その時の雰囲気それぞれの気持ちを受け止め対応し、働きやすい環境づくりに努めている様子が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、安心して暮らせる支援体制、家庭や地域との交流を大切に、暖かいホーム作り、本人の意思を尊重し支援するの3つを理念に毎日、意識して実践しています。	玄関やリビングに地域密着型サービスの意義を踏まえた3つの事業所理念と年間介護目標を掲示し、管理者と職員は共有し実践している。管理者からは優しく声掛けをしてほしいと話している。職員からは利用者一人一人の様子や体調の異変を見落とさないように心がけ、人生の先輩として接し、笑顔で過ごしてもらえるように努めているという話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を基に近隣のお祭り、運動会、地域の方との避難訓練等で地域住民の方と一緒に生活しています。	八坂神社の夏祭りでは山車が事業所まで来て踊りの披露やお祓いをしてくれる。お囃子の太鼓や鐘の音、踊り、縁日は利用者にとって地元の懐かしい祭りである。ボランティア訪問(踊り・落語・歌声喫茶・そば打ち・ポトルフラワー・手品等)が多く、交流が盛んである。地域住民から野菜の提供を受ける時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所交流会を活かして地域の方への理解が深まるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見交換、助言、指導等を職員会議等で話し合いケアの向上に努めています。	2ヶ月ごとに区長・民生委員・行政・家族・事業所担当者の構成メンバーで開催している。議題は利用者状況報告や事業予定、報告、事故報告を行い意見を聞いている。家族には家族会連絡文で報告、職員には会議で報告し共有している。前回は敬老会と家族会を兼ねて実施し、多数の参加者があり有意義であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の交流会、研修等に積極的に参加しています。市からのお願いにも積極的に応えるよう努めています。	関係担当課とは連絡を密にとり、協力体制を築いている。グループホーム連絡協議会や研修会に参加し、情報交換を行っている。小学校から運動会の招待を受け子供たちを見る姿は楽し気であったとのこと。ホームを体験学習の場として提供し、生徒や学校からお礼の手紙が届いた。見守り活動協力事業所として登録している。子供110番は検討中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を立ち上げ地域住民、ご家族、市と連携を密にとり開かれたホーム運営を心掛けています。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、職員にセルフチェックリストを実施したり、勉強会を開催して拘束を行わない利用者の安心・安全に向けたケアの提供に努めている。やむを得ず拘束となる場合は家族に説明し、同意書を取り交わして期間と解除に向けた取り組みを記録している。センサーマットは転倒防止として家族の同意の元使用しているが、リスクを理解し中止に向けた努力もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や職員アンケートを行い日々、虐待のないホーム作りを目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加している。研修後も他職員にフィードバックして共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、電話、口頭、文書等で説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者に職員担当を決め、希望等を傾聴しています。連絡文を送り日々の状態を説明して相談に乗るよう努めています。	担当職員を決め、利用者の希望する食事を食レクとして提供した。家族には面会時や電話連絡時に状態を説明し、意見を聞くようにしている。家族会は家族だけで話し合える場を提供し、施錠に関しての意見があり、地域に向け開かれたホームを目指しているためと説明した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やミーティング等で職員から意見を聞いている。また普段の会話からでも思いや意見を受け止めるよう努めています。	運営に関する職員採用や利用者受入については事前に報告を受けている。現場の意見等はすぐに検討し改善している。代表は現場に顔を出し、利用者とかかわりながら、沈んでいる職員に声掛けをして相談に乗り、職員のストレスや不満解消に努めている。飲み会や忘年会、オーナー宅での食事会も開催している。スキルアップにむけた研修に参加を促し、職業意識を高めるように支援している。受講後は会議等で報告し、伝達研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場になるべく顔を出すようにして相談に乗っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修への自主的参加を促しホームに掲示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との学習研修など企画して取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は常に寄り添う支援を大切にしており日々の会話の中で共に協力し合える関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に説明し、なるべく不安なくサービスが利用できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを十分に行い必要なサービスにつながるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アンダンテという一つの大きな家にみんなで協力し合って共に過ごしているという思いを職員一人一人が理解しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時、連絡文等で密な協力体制が構築できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開かれたホームを目指し積極的に面会を受け入れこちらからも伺えるよう支援しています。	友人との手紙のやりとりや、電話で遠方の家族と連絡を取るなど、大切な馴染みの人との関係継続に努めている。携帯を持っている利用者もいる。戦時中の同僚や会社の上司、近所の友人や知人の面会がある。家族の協力を得て、外食や買い物、お墓参り、自宅や理髪店に出かけている。近くにある馴染みのスーパーやフードコート、商店に出かけている。今まで通り、新聞や乳酸飲料を取っている利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ会議やミーティングで常に利用者さんの関係を話し良好な関係が保てるようケアに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子を施設、病院などに伺いに行き必要に応じて相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を基にご家族、ご本人とよくお話しをしスタッフ会議やミーティングなどでも情報交換し意向の把握に努めています。	生活歴をもとに日々の会話から思いや希望の把握に努め、会議やミーティングで情報交換し、統一したケアを提供している。趣味の継続(編み物・習字・塗り絵・パズル・折り紙等)や玄関先の掃き掃除・草花の植え替え・モップかけ・洗濯たみ・調理等で残存機能の低下防止とやりがいに繋げている。最近作ったフェルトのバッグを持って買い物に行くのを楽しみにしている。化粧品にこだわりがある利用者と一緒に商品を買うに行く。現在、自己表現が困難な利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基に、ご家族やご親戚、ご友人からの情報とご本人との関わりの中で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在のご利用者の状態をケース記録等から把握しスタッフ間で共有、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者本位のプランになるようユニット会議、ミーティングで話し合っておりご家族にもご説明し納得していただけるような計画書作りに努めています。	家族や利用者から要望を聞き、カンファレンスで課題とケアのあり方について話し合いケアプランを作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。ケース記録には職員の声掛けや利用者の様子等がきちんと記録され、一日の流れが把握できる記入となっている。前回の評価をうけ、目標達成にむけたケアの提供内容を記入しモニタリングから評価に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、連絡帳、業務日誌などを活用して業務、計画に活かすよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各関係機関と密に連携したサービス提供を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員、区長等から情報を得て地域行事等に参加し広告やチラシ等からも情報を得て地域の方々と一緒に楽しめるサービスを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続して受診しています。入居者の体調に変化があったときには、かかりつけ医に報告して指示を受けています。	今まで通りのかかりつけ医には家族対応で受診している。協力医院には職員が付き添い、月1回受診している。週1回訪看が入り利用者の体調管理(記録あり)に努めている。それぞれが報告をしあい、ケース記録に残している。専門医受診は家族付き添いで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い体調観察しています。体調に変化があった時はご家族、かかりつけ医、訪問看護に報告し指示を受け受診などの支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病状の把握に努め、協力医療機関、かかりつけ医とも相談、連携して迅速に対応できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に最初の意向を聞いています。その後の病気、状態に合わせ随時、各関係機関、ご家族と相談しながらターミナルケアに努めています。	契約時に重度化・急変時の指針と協力・往診医療機関・訪看の説明し、事前確認書を取り交わしている。状態に応じ、医師・訪看・管理者・家族と相談しながら、24時間医療連携を図り、利用者が望む最後の幕引きをターミナルプラン(身体的・精神的・医療的ケア)に添い、全職員で行っている。ターミナルケアは大変な部分もあるが、職員からは大切な利用者とのお別れに悔いが無いように家族を含めて話し合いができたので良かったと聞いた。仲が良かった利用者からお別れをしたいと要望があり、最後のお別れをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基に急変時や事故発生時に適切に対応できるよう努めています。勉強会なども開き日々のケアに活かせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練しています。1回は地域の方にも協力していただき行っています。	消防署指導・自主訓練(初期消火・夜間想定・緊急通報システム・避難経路確認・利用者行動把握等)を実施し、利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。近年の災害では想定外のことが起こっていることを念頭に置いて、事業所同士の協定や地域住民と合同訓練を実施し協力体制を構築した。地域住民との合同訓練も実施した。広域避難場所までの一時的な避難場所を保健センターと考えている。風水害マニュアル・備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。	地域住民との訓練は実施されているが、協力依頼内容の構築を図ることを期待する。福祉避難場所の確認と、緊急持ち出し用品に関し、何が必要かを職員と検討して整備し、保管場所を全職員で共有することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとりひとりがご入居者様を尊敬し笑顔で信頼し合える関係を大切にケアに努めています。	開設7年目に入って事業所として大きな柱が出来上がり、職員と利用者はわかり合えるようになってきたが、なれ合いの関係ではなく利用者を尊重し、プライバシーや誇りを損ねない対応に全職員で努めていることが確認された。書類は事務所内に保管し、情報開示に関する同意書を取り交わして個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活リズムを把握して想いや気持ちが自然に表出できるような環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを中心に、日常の関わりを大切にしながら利用者本位のケアを第一に考えケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の決定を尊重し支援しています。訪問美容での散髪、毛染め、パーマも行って希望の髪型にもなるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食レクなどで食べたい物の希望を把握して提供しています。職員と一緒に楽しめる食事の時間を大切にしています。	配食業者から食材を調達し、利用者は下準備や味見、テーブル拭き・下膳等を行っている。利用者の状況に合わせた形態で提供し、食欲や誤嚥等に配慮しながら職員も同じテーブルを囲み、会話や笑いのある楽しい食事風景であった。茶碗・お椀・箸・コップは愛着のある個人用を使用している。食レク・おやつ(ホットケーキ・たこ焼き・お好み焼き等)は利用者にとって楽しみとなっている。お誕生会は個々に合わせて食べたいものを提供。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分量を記録は確認しています。個々の入居者様の状態に合わせた提供を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事時に摂取状態の観察を行い、毎食後、声掛け誘導し義歯の適合状態や口腔内の違和感等を確認し口腔ケアを行っています。訪問歯科も場合によって利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表による排泄リズムから入居者の持っている身体能力や自力で排泄したいという思いに配慮しながら職員間で話し合いご家族とも共有し支援しています。	自立の利用者が多く見守りだが、排泄チェック表・パターン・様子から声掛けを行い、トイレに誘導してトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を実施している。排便は薬に頼らず、体操・散歩・乳製品で自然排便に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を大切にし散歩や体操を毎日行っています。牛乳やヨーグルト等も個々に合わせ提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回、入浴できるよう個々に合ったタイミング、入浴支援をしています。	基本的に週2~3回の入浴支援であるが、希望があればいつでも入浴可能である。シャワー椅子・手すりを設置し不安なく入浴できるように努めている。季節のゆず湯・しょうぶ湯・入浴剤で気分転換を図っている。着替えの用意は利用者もしくは職員と一緒にしている。タオルは顔用・体用を分けて使用の他、足ふきマットは個人毎に取り替え皮膚感染防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の生活リズムを把握して散歩やレクなど日中の活動時間を大切にはしています。疲れた時にはソファ等を用意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬用のファイルを作り、職員が服薬の内容や薬の変更、服薬量の変更が把握できるようにしています。服薬後の状態観察にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、塗り絵、貼り絵、編み物、パズルなど好きな物、得意な物を把握して達成感、役割をもてるよう日々支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は毎日、近所を散歩しています。個々の買い物や外出支援も行っています。外出行事を多く行っています。地域のお祭りにも参加しています。	天候・体調に合わせお天気の良い日は近場を散策している。季節ごとにお花を見に行ったり、希望に応じて買い物や外出に出かけている。地域のお祭り・駅前イベント等にも出かけ、その時の雰囲気を楽しんでもらっている。オーナーの自宅に出かけ、栗拾いや柿狩り、タケノコ狩り、そば打ちを行い、家族に1ヶ月ごとのお便りで様子を伝えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望があり、金銭の自己管理ができる方はホームで判断した金額の出来る範囲で自己管理しています。自己管理が難しい方はホームで管理し行事や希望時に使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれに合った事情、都合を聞きそれに配慮して支援しています。ご友人との手紙のやりとりも支援し行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を大切に季節に合った花を飾ったり絵を飾ったりしています。ソファを用意いつでも安心して休憩できるよう配慮しています。	利用者による掃き掃除できれいな玄関先や、綺麗に植え替えられたプランターの草花が訪問者を暖かく迎え入れてくれる。ホーム内は利用者も一緒にモップかけを行う。トイレの男女別表示がわかりやすい。季節の飾り物(コスモス・トンボの貼りえ・柿のパッチワーク・タペストリー等)を飾り、見当識への配慮が見られた。ソファでのんびり過ごしたり、畳コーナーで洗濯物をたたんでいるという。新聞以外に趣味の園芸や動物等の本を置き、自由に見てもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナー、応接室などを活用しご入居者、ご家族様に合った環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の希望を第一に使い慣れた物、好きな物を持ってきていただいて安心できる環境作りに努めています。	居室入り口に表札を掲示し混乱防止に努めている。事業所提供の大きなクローゼットは固定されている。馴染みのタンスやテレビ、テーブル、椅子等を安全面に配慮し設置している。家族の写真や目覚まし、遺影、ぬいぐるみ、造花、手作りを飾り、個性のある落ち着いた居室となっている。利用者の写真をアルバムにして部屋に置き、家族には喜ばれている。居室の掃除は職員と一緒に行き清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からリビングへの廊下は直線になって手すりがあり、視界が良く歩行しやすい環境です。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム アンダンテ

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 11 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民との訓練は実施されているが協力依頼内容の構築を図ることを期待する。福祉避難場所の確認と緊急持ち出し用品に関し、何が必要かを職員と検討して整備し保管場所を全職員で共有することが望ましい。	地域住民との連絡体制を強化し災害等の備えを職員全員で意識して行う。	災害時等での地域の各個人の役割分担をお願いする。福祉避難場所への避難方法の手順を明確にする。緊急持ち出し品の整理を行い職員全員が持ち出せるようにする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。